

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2532 号

Changes in attitudes of life insurance companies towards patients with sleep apnea syndrome undergoing continuous positive airway pressure in Japan

日本における睡眠時無呼吸症候群治療中の患者に対する生命保険取り扱い状況の変遷

澤田 大笹 (さわだ だいさく)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、日本における睡眠時無呼吸症候群 (Sleep Apnea Syndrome, SAS) 治療中の患者に対する生命保険取り扱い状況に関する論文である。近年の研究により、SAS は、循環器疾患や交通事故のリスクとなることが明らかにされている。治療には持続陽圧呼吸療法 (continuous positive airway pressure, CPAP) が有効であり、治療によって上述のリスクは、健常人レベルに改善されることが報告されている。このような状況の中、交通事故防止対策として SAS スクリーニングが我が国で実施されてきたが、その一方で、CPAP 治療中の患者が団体信用生命保険の加入を断られた事例が発生した。このことから、生命保険加入を拒否されることを避けるために事業用運転者が SAS スクリーニングを拒否する可能性が増えることが懸念された。以上の背景から、本研究では我が国における SAS 患者の生命保険加入申し込みへの対応の実態ならびに、SAS 患者に対する各生命保険会社の取り扱いの変遷を明らかにすることを目的として、国内の全生命保険会社を対象に、2009 年 (46 社)、2015 年 (41 社)、2021 年 (42 社) にアンケート調査を実施した。その結果、一般健常者と同様に通常通り引き受けると回答した会社は 2009 年の調査で 10 社 (22%)、2015 年で 8 社 (20%)、2021 年で 12 社 (29%) と、若干の増減はあるものの、約 10 社であった。また、SAS 患者を一般健常者と同等の条件で引き受けていない理由が会社毎に異なっていることが明らかになった。本調査により、SAS 患者が生命保険に加入しようとした場合、いまだに多くの生命保険会社が健常者とは異なる対応をしている実態が示された。以上、本論文は、SAS 患者に対する各生命保険会社の取り扱いの変遷について明らかにした社会医学的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。